

TYPE OF INDUSTRY

中小企業・地域経済

# グループ共通BCP策定

## 大成HD 20年めど 地域住民の安全も配慮

大成ホールディングス(大成HD、東京都葛飾区、徳倉俊一社長、03・3691・5484)は、グループ共通の事業継続計画(BCP)を2020年までに策定する。さらに3カ所に分散している各社の地域特性に応じたBCPも改めて取りまとめる。これらBCPの維持・改善を継続し、事業継続マネジメント(BCM)を強化する。これにより従業員の安全・安心を確保するとともに、グループで手がける商品を安定供給できる体制を固める。

これまで大成HDでBCPを策定していた樹脂・機能性商品事業は、今後はグループとして効率的にBCPをインケミカル(千葉県旭市)、分散・コーティング事業の大成化工(同成田市)など各社



従来の火災や震災、流行に加え、火山噴風水害、異常気象、パニック(世界的大BCPにする。現在、

ることから水害を、大成フラインケミカルの本社と工場は海岸に近い。千葉県東方沖地震による水害と津波を、大成化工は地盤が固い高台にあるが、周辺道路の遮断などを、それぞれ想定したBCPを策定する。

さらに事業内容や組織体系が変わるため、グループと各社のBCPは、いずれもPDCA(計画・実行・評価・改善)を回しやすいものにする。安否確認、避難、化学品の漏えい対応などの訓練も徹底する。

大成HDの稲生豊人専務(大成フラインケミカル社長)は、「国や自治体とも協力関係を構築し、地域住民の安全・安心を確保する方針も盛り込みたい」としている。

BCP訓練